

tapestry

COACH | kate spade | STUART WEITZMAN

本資料は、タペストリー・インクが2022年8月18日(木)午前7時(日本時間:同日午後8時)に発表したプレスリリースの日本語翻訳版です。

<報道関係者各位>

タペストリー・インク 2022 年度第 4 四半期及び通期の業績を発表

- 2022 年度第 4 四半期の希薄化後 1 株当たり利益は報告書ベースで前年比 8%増の 0.75ドル。非 GAAP ベースでは 0.78ドルとなり、比較可能な 13 週ベースで前年比 20%上昇
- 前年比 15%超の成長率で 67 億ドルの記録的な年間売上を達成
- 2022 年度のデジタル収益は約 25%増の 20 億ドル
- 2022 年度に約 19 億ドルの株主還元を実施。取締役会は配当金の 20%増を承認

こちらの[リンク](#)から各ブランドの解説を含む 2022 年度第 4 四半期及び通期の業績説明資料(英語のみ)がダウンロードできます。

ニューヨーク 2022 年 8 月 18 日 – ニューヨークに本拠地を置き、コーチ、ケイト・スペード、スチュアート・ワイツマンをグローバル展開するモダンラグジュアリー アクセサリー & ライフスタイルのマルチブランド企業であるタペストリー・インク(NYSE:TPR)は、本日、2022 年 7 月 2 日に終了した 2022 年度第 4 四半期及び通期の業績を報告しました。

タペストリー・インク最高経営責任者のジョアン・クレヴォイセラは次のように述べています。

「2022年度は傑出した業績をあげ、ポートフォリオ全体でさらなる増収増益を果たしました。これは、各ブランドの活力と、当社チームによるアクセラレーション・プログラムの優れた遂行力の証です。お客様への揺るぎないフォーカスが、変革され多様化された当社のビジネスモデルに支えられて、平均小売単価を上昇させ、グローバルのデジタル売上が20億ドルの大台に乗り、2022年度に北米だけで770万人の新規顧客を獲得しました」

「今後については、データリッチなプラットフォームでお客様との永続的関係を強化し、アイコンックなブランドのパワフルな組み合わせを活かしていくことで、長期的成長に向けた大きな可能性を見出しています。厳しい外部環境ですが、当社のカテゴリーの永続性、各ブランドの強み、変化に効果的に対応するチームの確かな能力により、将来に向けて好位置につけています。これらの競争優位性と確立されたケイパビリティで持続的に増収増益を推進し、有意義な株主価値の向上を図っていけるものと考えています」

資本の分配

2022年度中、タペストリー・インクは自社株買戻しプログラムと配当金の支払いにより約19億ドルの株主還元を実施しました。

- **自社株買戻しプログラム:** タペストリー・インクは約4,200万株の普通株式を平均38.08ドルで16億ドル相当買い戻しました。これには2022年度第4四半期に実施した普通株式約1,100万株を平均32.77ドルで買い戻した3億5,000万ドルを含みます。
- **配当金の支払い:** 取締役会は、2022年度の年間配当金を1株当たり1.00ドルとする2億6,400万ドルの株主還元を承認しました。

2023年度に関して、タペストリー・インクは強固な財務体質、高水準のフリーキャッシュフロー創出、そして継続的な成長見通しを鑑み、以下の想定を含む約10億ドルの株主還元を見込んでいます。

- **自社株買戻しプログラム:** タペストリー・インクは承認済みの15億ドル自社株買戻しプログラムのもと、会計年度中に普通株式約7億ドル相当を買い戻す見込みです。
- **配当金の支払い:** 取締役会は配当金の20%引き上げを承認しました。すなわち、2022年9月9日の営業終了時点で株主名簿に記載されている株主に対する四半期配当金を2022年9月26日に1株当たり0.30ドル支払います。年間配当金の見込み額は1株当たり1.20ドルとなります。将来的には利益成長率を上回るペースで増配していく意向です。

53週目の影響 - 2021年度

2021年7月3日に終了した2021年度第4四半期及び通期はそれぞれ14週と53週の業績であり、2022年度はそれぞれ13週と52週の業績でした。既報の通り、この53週目は2021年度のタペストリー・インクの収益に9,300万ドル貢献し、希薄化後1株当たり利益を0.09ドル増加させています。セグメント毎の収益及び営業利益の詳細な調整額については、本プレスリリースの財務諸表4及び6を参照してください。

2022年度第4四半期及び通期の業績に関する主なハイライト

2022年度第4四半期:

- 第4四半期は16億ドルの記録的収益に加速し、2019年度のパンデミック以前の水準に対して7%増となりました。
- 北米、日本、その他のアジア諸国、ヨーロッパでは比較可能な13週ベースで売上が前年比2桁増となり、新型コロナウイルス感染症関連の混乱で予想されていた中国全体の30%台前半の減収を相殺しました。
- デジタルが引き続き好調で、前年比1桁台後半の増加となりました。

- 報告書ベースの1株当たり純利益は前年同期14週に対して13週で8%増。非GAAPベースの1株当たり純利益は比較可能な13週ベースで20%増、2019年度のパンデミック以前の水準に対して29%の増加となりました。

2022年度通期:

- 前年比で15%超の増加、2019年度のパンデミック以前の水準との比較では11%の増加となる67億ドルの記録的収益を達成しました。
- デジタル売上は20億ドルで、2019年度のパンデミック以前の水準の3倍以上、収益全体の30%を占めます。
- 販管費の構造的なコスト削減分を成長促進のために再投資。特にマーケティング費用を増やし、当年度の収益全体の8%を占めました。
- 報告書ベースの1株当たり純利益は前年比約8%の成長。非GAAPベースの1株当たり純利益は前年比20%増、2019年度のパンデミック以前の水準に対して比較可能な52週ベースで35%超の成長となりました。

2022年度のアクセラレーション・プログラムに関する主なハイライト

2022年度を通して、タペストリー・インクは、消費者へのフォーカスの先鋭化、デジタル・ファースト思考によるデータの活用、よりスリムで対応力の高い組織への変革といったアクセラレーション・プログラムが奏功して、目覚ましい進展を果たしました。

- **北米の全チャンネルで約770万人の新規顧客を獲得。**店舗とオンラインの両方が伸長し、前年比で10%の増加となりました。
- 消費者中心の視点を保ち、お客様とのエモーショナルなつながりを醸成することで、**お客様1人当たりの平均支出額の上昇、顧客維持率の向上、全ブランドで休眠顧客の継続的な再活性化**に結実しました。
- **コーチ、ケイト・スペード、スチュアート・ワイツマンの全ブランドで世界的な平均小売単価上昇を実現。**ブランド・ヒート(ブランドの熱量)と価格決定力、主力製品の牽引力向上と一部製品の値上げ、割引販促抑制のための構造改革が引き続き奏功したことを反映したものです。
- 人材面を含む大規模投資による**デジタル・ケイパビリティの高度化**で、お客様のショッピング体験向上及びコンバージョン促進を図りました。会計年度のデジタルの収益は売上全体の30%に相当する20億ドルとなりました。
- **2022年度のランレートで総額3億ドルの経費節減を実現**し、ブランド力強化施策に引き続き投資しています。

2022 年度第 4 四半期の業績

- **純売上高**は、前年同期の16億2,000万ドルに対して16億2,000万ドルとなり、報告書ベースで前年比約1%増となりました。比較可能な13週ベースでは、米ドル高による2ポイントの為替差損を除くと、純売上高は前年比9%増となりました。
- **売上総利益**は報告書ベース及び非GAAPベースで11億2,000万ドル、売上総利益率は68.9%となりました。予想通り、運送費が合計3,600万ドル、215ベースポイント増加し、売上総利益率にマイナスの影響を与えました。なお2021年度第4四半期の報告書ベースの売上総利益は11億7,000万ドル、売上総利益率は72.2%でした。前年同期の非GAAPベースの売上総利益は比較可能な13週ベースで10億9,000万ドル、売上総利益率は71.7%でした。
- **販管費**は報告書ベースで8億7,100万ドル、対売上比の販管費率は53.6%となりました。なお2021年度第4四半期の販管費は報告書ベースで9億600万ドル、対売上比の販管費率は56.1%でした。非GAAPベースでは、販管費が8億6,000万ドル、対売上比の販管費率が52.9%となりました。なお2021年度第4四半期の非GAAPベースの販管費は比較可能な13週ベースで8億5,000万ドル、対売上比の販管費率は55.8%でした。
- **営業利益**は報告書ベースで前年同期の2億6,000万ドルに対して2億4,900万ドル、営業利益率は前年同期の16.1%に対して15.3%となりました。非GAAPベースでは、営業利益が2億6,000万ドル、営業利益率が16.0%となりました。なお前年同期の非GAAPベースの営業利益は比較可能な13週ベースで2億4,200万ドル、営業利益率は15.9%でした。
- **支払利息の総額**は、前年同期の1,600万ドルに対して1,200万ドルでした。
- **その他の支出**は800万ドルで、主に米ドル高に伴う為替差損です。なお前年同期のその他の支出は100万ドルでした。
- **純利益**は報告書ベースで前年同期の2億ドルに対して1億8,900万ドル、希薄化後1株当たり利益は前年同期の0.69ドルに対して0.75ドルとなりました。2022年第4四半期の報告書ベースの税率は前年同期の17.5%に対して17.3%でした。非GAAPベースの2022年度第4四半期の純利益は1億9,700万ドル、希薄化後1株当たり利益は0.78ドルとなりました。なお2021年度第4四半期の非GAAPベースの純利益は比較可能な13週ベースで1億8,700万ドル、希薄化後1株当たり利益は0.65ドルでした。非GAAPベースの2022年度第4四半期の税率は前年同期の16.7%に対して17.7%でした。

2022 年度通期の業績

- **純売上高**は、前年の57億5,000万ドルに対して66億8,000万ドルで、報告書ベースで前年比16%増となりました。比較可能な52週ベースの純売上高は為替差損の50ベースポイントのマイナスを除くと前年比で19%増、2019年度のパンデミック前水準との比較では11%増でした。
- **売上総利益**は報告書ベース及び非GAAPベースで46億5,000万ドル、売上総利益率は69.6%となりました。予想通り、運送費が合計1億7,800万ドル、260ベースポイント増加し、売上総利益率にマ

イナスの影響を及ぼしました。なお2021年度通期の売上総利益は報告書ベースで40億8,000万ドル、売上総利益率は71.0%、非GAAPベースでは比較可能な52週ベースで40億1,000万ドル、売上総利益率は70.9%でした。

- **販管費**は報告書ベースで前年の31億1,000万に対して34億7,000万ドル、対売上比の販管費率は前年の54.2%に対して52.0%となりました。非GAAPベースの販管費は比較可能な52週ベースで、前年の29億4,000万ドルに対して34億3,000万ドル、対売上比の販管費率は前年の52.1%に対して51.3%となりました。
- **営業利益**は報告書ベースで11億8,000万ドル、営業利益率は17.6%となりました。なお2021年度通期の営業利益は9億6,800万ドル、営業利益率は16.8%でした。非GAAPベースの営業利益は比較可能な52週ベースで、前年の10億7,000万ドルに対して12億2,000万ドル、営業利益率は前年の18.8%に対して18.2%となりました。
- **負債の消滅**は報告書ベースで5,400万ドルの損失で、これは2022年度第2四半期中に完了した5億ドルの現金対価の公開買い付けに伴う保険料、償却費、手数料に関連するものです。
- **支払利息の総額**は、前年の7,100万ドルに対して5,900万ドルでした。
- **その他の支出**は、1,600万ドルで、大部分が米ドル高に伴う為替差損です。なお前年はその他の収入が100万ドルでした。
- **純利益**は報告書ベースで8億5,600万ドル、希薄化後1株当たり利益は3.17ドルとなりました。なお2021年度通期の純利益は8億3,400万ドル、希薄化後1株当たり損失は2.95ドルでした。2022年度通期の報告書ベースの税率は前年の7.0%に対して18.2%でした。非GAAPベースの2022年度通期の純利益は9億3,600万ドル、希薄化後1株当たり利益は3.47ドルとなりました。なお非GAAPベースの2021年度通期の純利益は比較可能な52週ベースで8億1,600万ドル、希薄化後1株当たり利益は2.88ドルでした。非GAAPベースの2022年度通期の税率は前年の17.9%に対して18.1%でした。

貸借対照表とキャッシュフローに関する主なハイライト

- **現金及び現金等価物、並びに短期投資**の合計は9億5,300万ドルで、**借入金残高の合計**は16億9,000万ドルでした。
- 2022年度末時点での**棚卸資産**は、積送品の増加が最大の要因となり、前年同期末時点の7億3,500万ドルに対して9億9,400万ドルとなりました。
- 2022年度の**フリーキャッシュフロー**は、前年度の12億1,000万ドルの流入に対して7億5,900万ドルの流入でした。**設備投資及びクラウド化に関連する導入費用**は、前年度の1億1,600万ドルに対して1億6,200万ドルでした。

非 GAAP の調整

2022年度第4四半期中、タペストリー・インクは税引前利益を1,100万ドル、純利益を800万ドル、希薄化後1株当たり利益を0.03ドルそれぞれ減少させた特定の項目を計上しました。2022年度通期では、これらの費用が報告書ベースの純利益を8,000万ドル、希薄化後1株当たり利益を0.30ドル低下させました。これらの項目には以下を含みます。

- **アクセラレーション・プログラム**:主にタペストリー・インクの包括的かつ戦略的なイニシアチブの策定及び遂行に伴って発生した株式報酬及び専門家の費用に関連する2022年度第4四半期の税引前費用1,100万ドル、2022年度通期の税引前費用4,300万ドル。予想通り、アクセラレーション・プログラムの期間中、2億1,900万ドルの費用が発生しました。その主な内訳は、退職手当、専門家の費用、店舗閉鎖費用、株式報酬など組織変更に関連するものです。なお、2023年度はアクセラレーション・プログラム関連の追加費用は発生しない見込みです。
- **負債の消滅に関する費用**:2025年満期社債及び2027年満期社債の5億ドルの現金対価の公開買付けに伴う保険料、償却費、手数料に関連して2022年度中に税引前費用5,400万ドルが発生しました。

報告書ベースから非GAAPベースへの調整項目の詳細は本プレスリリースの財務諸表3～6をご覧ください。

2023 年度業績見通し

タペストリー・インクは2023年度の業績について以下の通り見込んでいます。

- **収益**は69億ドル前後。これは為替圧力による約300ベースポイントの影響を含む、報告書ベースで前年比3%から4%の成長を反映したものです。なお、恒常通貨ベースでの収益の伸びは約6%から7%となる見込みです。
- **支払利息の総額**は、約3,500万ドル。
- **税率**は、約21.0%。
- **希薄化後の加重平均株式数**は、予想される自社株買戻し約7億ドルを含む約2億4,200万株。
- **希薄化後 1 株当たり利益**は、前年比2桁成長を反映して3.80ドルから3.90ドルの範囲。

上記の見通しは以下を想定しています。

- 米ドル高は進まないこと。予測時点でのスポットレートに基づく情報による。
- 中国全体の新型コロナウイルス感染症に伴う混乱からの段階的回復が継続し、パンデミックによる大規模なロックダウンやサプライチェーンへのさらなる圧力がないこと。
- インフレ圧力や消費心理が大幅に悪化しないこと。
- 一般特惠関税制度 (GSP) 復活の可能性による恩恵を受けないこと。

これら及びその他の外的要因の動的な性質を鑑みると、業績が今回の見通しから大きく異なる可能性があります。

カンファレンスコールについて

タペストリー・インクは、本日 2022 年 8 月 18 日午前 8 時 00 分(米国東部標準時)に、今回発表の業績についてのカンファレンスコールを実施します。ご関心のある方は、インターネットにてライブのウェブキャスト www.tapestry.com/investors にアクセスされるか、カンファレンスコール(1-866-847-4217 または 1-203-518-9845 にダイヤルし、カンファレンス ID 4973027 を入力してください)へお申し込みください。電話による再放送(1-800-283-4641 または 1-402-220-0851 にダイヤル)は同日の米国東部標準時、正午より 5 営業日の間お聞きいただけます。ウェブキャストの再放送はタペストリー・インクのウェブサイト上で 5 営業日の間アクセスすることができます。業績説明資料も www.tapestry.com/investors でご覧いただけます。

今後の予定について

既報の通り、2022 年 9 月 9 日に長期的な戦略的施策及び業績見通しについて説明する Investor Day の開催を予定しています。

タペストリー・インクの 2023 年度第 1 四半期の業績発表は、2022 年 11 月 10 日(木)の予定です。

今後お知らせを受信されたい方は www.tapestry.com/investors (“Subscribe to E-Mail Alerts”)にご登録をお願いします。

タペストリー・インクについて

タペストリー・インクは、コーチ、ケイト・スペード ニューヨーク、スチュアート・ワイツマンのそれぞれが持つ魅力を集結させたグローバルなマルチブランド企業です。各ブランドが唯一無二の個性をもつ存在でありながら、独自性のある商品と、チャネルや国・地域を超えたブランドならではの顧客エクスペリエンスによって定義される革新性と本物志向のコミットメントを共有しています。タペストリー・インクは総合力を発揮して、お客様に感動を与え、コミュニティに力を与え、ファッション業界をより持続可能なものにするとともに、公平で、インクルージョンとダイバーシティーに富んだ企業へと進化していきます。個々の象徴的ブランドがひとつになることで、無限の可能性を追求できるのです。タペストリー・インクの詳細については <http://www.tapestry.com> (英語のみ)をご覧ください。タペストリー・インクに関する重要なニュースと情報については、Investor Relations のセクション www.tapestry.com/investors をご覧ください。さらに、投資家の皆様はタペストリー・インクのニュースリリース及び証券取引委員会への報告を引き続きご確認ください。タペストリー・インクは投資家の皆様への主要な情報の配信網としてこれらを活用しており、一部には重要情報や未公開情報が含まれている場合があります。タペストリー・インクの普通株式はニューヨーク証券取引所でティッカーシンボル TPR で取引されています。

当プレスリリースには将来の見通しが含まれていますが、実際の結果は事業に及ぼす様々なリスクや不確定な事由により現在の見通しと異なる可能性があります。タバストーリー・インクは、法律で求められる場合を除き、いかなる理由でも当資料に含まれる将来の見通しに関する記述内容を修正または更新する義務を一切負いません。

###

財務諸表 1: 連結損益計算書

タペストリー・インク 連結損益計算書

2022年7月2日及び2021年7月3日終了の四半期及び年度

(単位: 百万ドル、ただし1株当たり純利益を除く)

	(未監査)		(未監査)(監査済)	
	下記期日に終了の四半期		下記期日に終了の年度	
	2022年7月2日	2021年7月3日	2022年7月2日	2021年7月3日
売上高	1,624.9	\$ 1,615.4	\$ 6,684.5	\$ 5,746.3
売上原価	505.7	449.3	2,034.1	1,664.4
売上総利益	1,119.2	1,166.1	4,650.4	4,081.9
販売管理費	870.7	906.4	3,474.6	3,113.9
営業利益(損失)	248.5	259.7	1,175.8	968.0
負債の消滅による損失	-	-	53.7	-
支払利息	12.0	16.4	58.7	71.4
その他の支出(収入)	8.1	1.1	16.4	(0.7)
税引前利益	228.5	242.2	1,047.0	897.3
税引当金	39.6	42.4	190.7	63.1
純利益(損失)	\$ 188.9	\$ 199.8	\$ 856.3	\$ 834.2
1株当たり純利益(損失)				
基本	\$ 0.76	\$ 0.72	\$ 3.24	\$ 3.00
希薄化後	\$ 0.75	\$ 0.69	\$ 3.17	\$ 2.95
1株当たり純利益の算出で使用した株式数				
基本	247.6	279.2	264.3	277.9
希薄化後	252.3	287.6	270.1	283.0

財務諸表 2: 売上高内訳

タペストリー・インク 売上高内訳

2022年7月2日及び2021年7月3日終了の四半期及び年度

(単位: 百万ドル)
(未監査)

	下記期日に終了の四半期		増減率 (2021年度対比)	恒常通貨ベースの 増減率(2021年度対比)	売上高調整後の増減 率(2021年度対比) ⁽¹⁾	増減率 (2019年度対比)
	2022年7月2日	2021年7月3日				
	コーチ	\$ 1,209.0				
ケイト・スベード	344.1	341.6	1%	2%	8%	4%
スチュアート・ワイツマン	71.8	84.9	(15)%	(15)%	(12)%	(16)%
タペストリー合計	\$ 1,624.9	\$ 1,615.4	1%	3%	7%	7%

(1) 「売上高調整後の増減率」は2021年度第4四半期から14週目を除外したものの、2021年度の売上高調整については財務諸表4の「2021年度14週目の影響の詳細」を参照

	下記期日に終了の年度		増減率 (2021年度対比)	恒常通貨ベースの 増減率(2021年度対比)	売上高調整後の増減 率(2021年度対比) ⁽²⁾	増減率 (2019年度対比)
	2022年7月2日	2021年7月3日				
	コーチ	\$ 4,921.3				
ケイト・スベード	1,445.5	1,210.0	20%	20%	22%	6%
スチュアート・ワイツマン	317.7	283.2	12%	11%	13%	(18)%
タペストリー合計	\$ 6,684.5	\$ 5,746.3	16.3%	17%	18%	11%

(2) 「売上高調整後の増減率」は2021年度から53週目を除外したものの、2021年度の売上高調整については財務諸表6の「2021年度53週目の影響の詳細」を参照

財務諸表 3: 比較可能性に影響を与える項目 – 2022 年度第 4 四半期

タバストリー・インク				
GAAPから非GAAPへの調整				
(単位: 百万ドル、ただし1株当たり純利益を除く)				
(未監査)				
2022年7月2日終了の四半期				
比較可能性に影響を与える項目				
GAAPベース (報告書)	アクセラレーション・ プログラム	負債の消滅	非GAAPベース (特殊要因除外後)	
売上原価				
コーチ	864.6	-	-	864.6
ケイト・スペード	215.4	-	-	215.4
スチュアート・ワイツマン	39.2	-	-	39.2
売上総利益⁽¹⁾	\$ 1,119.2	\$ -	\$ -	\$ 1,119.2
販売管理費				
コーチ	515.2	2.7	-	512.5
ケイト・スペード	189.2	1.7	-	187.5
スチュアート・ワイツマン	42.9	0.4	-	42.5
会社	123.4	6.3	-	117.1
販売管理費	\$ 870.7	\$ 11.1	\$ -	\$ 859.6
営業利益(損失)				
コーチ	349.4	(2.7)	-	352.1
ケイト・スペード	26.2	(1.7)	-	27.9
スチュアート・ワイツマン	(3.7)	(0.4)	-	(3.3)
会社	(123.4)	(6.3)	-	(117.1)
営業利益(損失)	\$ 248.5	\$ (11.1)	\$ -	\$ 259.6
負債の消滅に関する損失				
支払利息及びその他の支出	20.0	-	-	20.0
税引当金	39.7	(2.7)	-	42.4
純利益(損失)	\$ 188.8	\$ (8.4)	\$ -	\$ 197.2
希薄化後1株当たり純利益(損失)	\$ 0.75	\$ (0.03)	\$ -	\$ 0.78

⁽¹⁾ 売上総利益の調整額は売上原価に計上

財務諸表 4: 比較可能性に影響を与える項目 – 2021 年度第 4 四半期

タバストリー・インク
GAAPから非GAAPへの調整
(単位: 百万ドル、ただし1株当たり純利益を除く)
(未監査)

	2021年7月3日終了の四半期			
	GAAPベース (報告書)	比較可能性に影響を与える項目		
		減損処理	アクセラレーション・ プログラム	非GAAPベース (特殊要因除外後)
売上原価				
コーチ	898.0	8.1	-	889.9
ケイト・スペード	221.0	-	-	221.0
スチュアート・ワイツマン	47.1	-	-	47.1
売上総利益⁽¹⁾	\$ 1,166.1	\$ 8.1	\$ -	\$ 1,158.0
販売管理費				
コーチ	519.3	-	0.7	518.6
ケイト・スペード	185.8	-	0.1	185.7
スチュアート・ワイツマン	50.1	-	(1.2)	51.3
会社	151.2	-	21.3	129.9
販売管理費	\$ 906.4	\$ -	\$ 20.9	\$ 885.5
営業利益(損失)				
コーチ	378.7	8.1	(0.7)	371.3
ケイト・スペード	35.2	-	(0.1)	35.3
スチュアート・ワイツマン	(3.0)	-	1.2	(4.2)
会社	(151.2)	-	(21.3)	(129.9)
営業利益(損失)	\$ 259.7	\$ 8.1	\$ (20.9)	\$ 272.5
税引当金	42.4	2.0	(2.2)	42.6
純利益(損失)	\$ 199.8	\$ 6.1	\$ (18.7)	\$ 212.4
希薄化後1株当たり純利益(損失)	\$ 0.69	\$ 0.02	\$ (0.07)	\$ 0.74

⁽¹⁾ 売上総利益の調整額は売上原価に計上

上に示されている数値には2021年度第4四半期の追加の週の影響が反映されています。下表は各セグメントの売上高、売上総利益、販売管理費、営業利益に関する追加の週の影響を示したものです。

タペストリー・インク
2021年度14週目の影響に関する詳細
(単位:百万ドル)
(未監査)

2021年7月3日に終了の四半期

	非GAAP	14週目の影響	調整後
売上高			
コーチ	\$ 1,188.9	\$ 67.7	\$ 1,212.2
ケイト・スペード	341.6	21.7	319.9
スチュアート・ワイツマン	84.9	3.3	81.6
売上高合計	\$ 1,615.4	\$ 92.7	\$ 1,522.7
売上原価			
コーチ	\$ 889.9	\$ 50.3	\$ 839.6
ケイト・スペード	221.0	13.3	207.7
スチュアート・ワイツマン	47.1	2.0	45.1
売上総利益合計	\$ 1,158.0	\$ 65.6	\$ 1,092.4
販売管理費			
コーチ	\$ 518.6	\$ 21.7	\$ 496.9
ケイト・スペード	185.7	8.6	177.1
スチュアート・ワイツマン	51.3	1.8	49.5
会社	129.9	3.5	126.4
販売管理費合計	\$ 885.5	\$ 35.6	\$ 849.9
営業利益(損失)			
コーチ	\$ 371.3	\$ 28.6	\$ 342.7
ケイト・スペード	35.3	4.7	30.6
スチュアート・ワイツマン	(4.2)	0.2	(4.4)
会社	(129.9)	(3.5)	(126.4)
営業利益(損失)合計	\$ 272.5	\$ 30.0	\$ 242.5

財務諸表 5: 比較可能性に影響を与える項目 - 2022 年度

タバストリー・インク

GAAPから非GAAPへの調整

(単位: 百万ドル、ただし株当たり純利益を除く)

(未監査)

	2022年7月2日終了の年度			
	比較可能性に影響を与える項目			
	GAAPベース (報告書)	アクセラレーション・ プログラム	負債の消滅	非GAAPベース (特殊要因除外後)
売上原価				
コーチ	3,553.8	-	-	3,553.8
ケイト・スペード	912.0	-	-	912.0
スチュアート・ワイツマン	184.6	-	-	184.6
売上総利益 ⁽¹⁾	\$ 4,650.4	\$ -	\$ -	\$ 4,650.4
販売管理費				
コーチ	2,079.9	6.7	-	2,073.2
ケイト・スペード	754.6	5.9	-	748.7
スチュアート・ワイツマン	182.8	3.6	-	179.2
会社	457.3	26.6	-	430.7
販売管理費	\$ 3,474.6	\$ 42.8	\$ -	\$ 3,431.8
営業利益(損失)				
コーチ	1,473.9	(6.7)	-	1,480.6
ケイト・スペード	157.4	(5.9)	-	163.3
スチュアート・ワイツマン	1.8	(3.6)	-	5.4
会社	(457.3)	(26.6)	-	(430.7)
営業利益(損失)	\$ 1,175.8	\$ (42.8)	\$ -	\$ 1,218.6
負債の消滅による損失	53.7	-	53.7	-
支払利息及びその他の支出	75.1	-	-	75.1
税引当金	190.7	(3.4)	(12.9)	207.0
純利益(損失)	\$ 856.3	\$ (39.4)	\$ (40.8)	\$ 936.5
希薄化後1株当たり純利益(損失)	\$ 3.17	\$ (0.15)	\$ (0.15)	\$ 3.47

⁽¹⁾ 売上総利益の調整額は売上原価に計上

財務諸表 6: 比較可能性に影響を与える項目 - 2021 年度

ネクストリー・インク
GAAPから非GAAPへの調整
(単位: 百万ドル、ただし1株当たり純利益を除く)
(未監査)

	2021年7月3日終了の年度				
	比較可能性に影響を与える項目				
	GAAPベース (報告書)	CARES Act による税効果	減損処理	アクセラレーション・ プログラム	非GAAPベース (特殊要因除外後)
売上原価					
コーチ	3,149.0	-	8.1	-	3,140.9
ケイト・スペード	768.4	-	-	-	768.4
スチュアート・ワイツマン	164.5	-	-	-	164.5
売上総利益⁽¹⁾	\$ 4,081.9	\$ -	\$ 8.1	\$ -	\$ 4,073.8
販売管理費					
コーチ	1,836.9	-	20.4	21.9	1,794.6
ケイト・スペード	659.9	-	19.3	4.4	636.2
スチュアート・ワイツマン	173.1	-	6.1	(2.5)	169.5
会社	444.0	-	-	65.8	378.2
販売管理費	\$ 3,113.9	\$ -	\$ 45.8	\$ 89.6	\$ 2,978.5
営業利益(損失)					
コーチ	1,312.1	-	(12.3)	(21.9)	1,346.3
ケイト・スペード	108.5	-	(19.3)	(4.4)	132.2
スチュアート・ワイツマン	(8.6)	-	(6.1)	2.5	(5.0)
会社	(444.0)	-	-	(65.8)	(378.2)
営業利益(損失)	\$ 968.0	\$ -	\$ (37.7)	\$ (89.6)	\$ 1,095.3
税引当金	63.1	(95.0)	(7.8)	(17.6)	183.5
純利益(損失)	\$ 834.2	\$ 95.0	\$ (29.9)	\$ (72.0)	\$ 841.1
希薄化後1株当たり純利益(損失)	\$ 2.95	\$ 0.31	\$ (0.10)	\$ (0.23)	\$ 2.97

⁽¹⁾ 売上総利益の調整額は売上原価に計上

上に示されている数値には2021年度通期の追加の週の影響が反映されています。下表は各セグメントの売上高、売上総利益、販売管理費、営業利益に関する追加の週の影響を示したものです。

タペストリー・インク
2021年度53週目の影響に関する詳細
(単位:百万ドル)
(未監査)

2021年7月3日に終了の年度

	非GAAP	53週目の影響	調整後
売上高			
コーチ	\$ 4,253.1	\$ 67.7	\$ 4,185.4
ケイト・スピード	1,210.0	21.7	1,188.3
スチュアート・ワイツマン	283.2	3.3	279.9
売上高合計	\$ 5,746.3	\$ 92.7	\$ 5,653.6
売上原価			
コーチ	\$ 3,140.9	\$ 50.3	\$ 3,090.6
ケイト・スピード	768.4	13.3	755.1
スチュアート・ワイツマン	164.5	2.0	162.5
売上総利益合計	\$ 4,073.8	\$ 65.5	\$ 4,008.3
販売管理費			
コーチ	\$ 1,794.6	\$ 21.7	\$ 1,772.9
ケイト・スピード	636.2	8.5	627.7
スチュアート・ワイツマン	169.5	1.8	167.7
会社	378.2	3.5	374.7
販売管理費合計	\$ 2,978.5	\$ 35.6	\$ 2,942.9
営業利益(損失)			
コーチ	\$ 1,346.3	\$ 28.6	\$ 1,317.7
ケイト・スピード	132.2	4.7	127.5
スチュアート・ワイツマン	(5.0)	0.2	(5.2)
会社	(378.2)	(3.5)	(374.7)
営業利益(損失)合計	\$ 1,095.3	\$ 30.0	\$ 1,065.3

タペストリー・インクは米国会計基準(GAAP)に従って情報を報告しています。経営陣が、非GAAP財務指標を、GAAPに基づいて作成された財務情報から切り離して単独で評価したり、その代用とすることは無く、投資家にそれを推奨するものでもありません。また、タペストリー・インクが用いた非GAAP指標はタペストリー・インク特有のものである場合があり、他社が用いる非GAAP指標とは異なる場合があります。上記の財務情報、販管費率、営業利益率は、2022年度の第4四半期及び通期の負債の消滅及びアクセラレーション・プログラムの費用、2021年度の第4四半期及び通期の減損処理及びアクセラレーション・プログラムの費用、2021年度の通期にCARES Actに基づいてタペストリー・インクが適用を受けた税法上の優遇措置に関連する特定項目の影響を含む場合と含まない場合の両方で表示されています。また、上記の財務情報は2021年度第4四半期及び通期において第14週及び第53週の影響を含む場合と含まない場合の両方を表示しています。

タペストリー・インクはグローバルに事業展開しており、財務業績はGAAPに基づいて米ドル建てで報告しています。タペストリー・インク及び各セグメントの純売上上の増減率は、外貨建て売上の米ドル換算による為替変動の影響を算入・除外し、前四半期及び前年同期と比較して表示しています。タペストリー・インクは、前期の月平均の換算レートを使用して当期の純売上を現地通貨に換算することで恒常通貨ベースでの純売上を算出しています。

タペストリー・インク及び各セグメントの純売上上の増減額は売上上の絶対的な増減額に基づくものであり、新型コロナウイルス感染症の世界的流行の影響を受ける不確実なビジネス環境のため、これまで使用されてきたタペストリー・インクの既存店売上の定義に従った表示ではありません。

経営陣はこれらの非GAAP及び恒常通貨の指標を使って事業を行い、該当期間に関する営業成績の定期報告の間に事業を評価し、会社のリソース及び業績に関する意思決定を行います。タペストリー・インクは、これらの期間比較ができない項目を除く非GAAP指標を提示することは、投資家及びその他の人々が会社の継続的な営業成績や財務結果を経営陣の業績評価と一致する方法で評価し、それらの結果を会社の過去の業績と比較して理解する上で役立つものと確信しています。さらにタペストリー・インクはこれら指標を恒常通貨ベースで表示することは、前年比の為替レートの変動がこれら業績指標に与える重大な影響について投資家及びアナリストの理解を助け、これらの影響を除外した場合の業績及び業績見込みを評価する枠組みを提供するものと確信しています。

これらの非GAAP指標に加えて、タバストリー・インクは特定の業績及び傾向について、パンデミック前の水準である2019年度との比較を提供していますが、これは新型コロナウイルス感染症の世界的流行が会社の2020年度下半期以降の事業及び財務状況に多大な影響を及ぼしたため、投資家及びその他の人々が会社の業績を評価する上で有用であると考えたからです。

財務諸表7:連結(要約)貸借対照表

タバストリー・インク
連結(要約)貸借対照表
2022年7月2日、2021年7月3日現在
(単位:百万ドル)

	(未監査) 2022年7月2日	(監査済) 2021年7月3日
資産		
現金及び現金等価物、並びに短期投資	\$ 953.2	\$ 2,015.8
売掛金	252.3	200.2
棚卸資産	994.2	734.8
その他流動資産	374.1	424.5
流動資産合計	2,573.8	3,375.3
有形固定資産(減価償却後)	544.4	678.1
オペレーティングリース使用权資産	1,281.6	1,496.6
その他固定資産	2,865.5	2,832.4
資産合計	\$ 7,265.3	\$ 8,382.4
負債及び資本		
買掛金	\$ 520.7	\$ 445.2
未払債務	628.2	661.2
短期オペレーティングリース負債	288.7	319.4
1年内返済予定長期借入金	31.2	-
流動負債合計	1,468.8	1,425.8
長期借入金	1,659.2	1,590.7
長期オペレーティングリース負債	1,282.3	1,525.9
その他負債	569.5	580.7
株主資本	2,285.5	3,259.3
負債及び資本合計	\$ 7,265.3	\$ 8,382.4

財務諸表 8: 連結(要約)キャッシュフロー計算書

タバストリー・インク
 連結(要約)キャッシュフロー計算書
 2022年7月2日及び2021年7月3日終了の年度
 (単位: 百万ドル)

	(未監査)	(監査済)
	2022年7月2日	2021年7月3日
営業活動によるキャッシュフロー		
当期純利益(損失)	\$ 856.3	\$ 834.2
当期純利益(損失)から営業活動によるキャッシュフローへの調整		
減価償却費	195.3	218.7
新型コロナウイルス感染症関連の減損処理費用	-	45.8
その他の非現金項目	168.4	(5.3)
営業資産及び負債の変動額	(366.8)	230.3
営業活動から生じた現金	853.2	1,323.7
投資活動によるキャッシュフロー		
固定資産の取得	(93.9)	(116.0)
有価証券の取得	(540.4)	(0.7)
その他	380.7	25.7
投資活動から生じた(に使用した)現金	(253.6)	(91.0)
財務活動によるキャッシュフロー		
配当金の支払	(264.4)	-
自己株式の取得	(1,600.0)	-
社債の発行による収入(割引後)	998.5	-
負債消滅費用の支出	(50.7)	-
債務の返済	(900.0)	(711.5)
その他	38.5	45.5
財務活動から生じた(に使用した)現金	(1,778.1)	(666.0)
為替相場変動の現金及び現金等価物に対する影響	(39.4)	14.7
現金及び現金等価物の純増(純減)	(1,217.9)	581.4
現金及び現金等価物の期首残高	\$ 2,007.7	\$ 1,426.3
現金及び現金等価物の期末残高	\$ 789.8	\$ 2,007.7

財務諸表 9: ブランド毎の店舗数 – 2022 年度第 4 四半期

<u>タペストリー・インク</u>				
店舗数				
2022年4月2日、2022年7月2日現在				
(未監査)				
直営店舗数:	2022年 4月2日現在	出店数	(閉店数)	2022年 7月2日現在
ユーチ				
北米	346	-	(3)	343
海外	606	6	(10)	602
ケイト・スペード				
北米	207	-	-	207
海外	192	4	(5)	191
スチュアート・ワイツマン				
北米	40	-	(1)	39
海外	57	4	-	61

財務諸表 10: ブランド毎の店舗数 – 2022 年度

<u>タペストリー・インク</u>				
店舗数				
2021年7月3日、2022年7月2日現在				
(未監査)				
直営店舗数:	2021年 7月3日現在	出店数	(閉店数)	2022年 7月2日現在
ユーチ				
北米	354	3	(14)	343
海外	585	45	(28)	602
ケイト・スペード				
北米	210	-	(3)	207
海外	197	12	(18)	191
スチュアート・ワイツマン				
北米	48	-	(9)	39
海外	56	5	-	61

###